－女高Ⅰ遺跡確認調査－

1　位　　置　掛川市高田
2　調査期間　平成31年3月
3　内　　容

弥生時代後期の壺出土状況

女高Ⅰ遺跡は、高田原段丘上にある弥生時代中期から古墳時代の遺跡です。調査地は茶畑で、開発工事に伴い確認調査を実施しました。

調査の結果、弥生時代後期の壺等の土器の他、竪穴住居跡や小穴等が発見されました。竪穴住居跡の規模は不明ですが、遺構の保存状態は良好でした。今回の開発計画では遺構に影響はなく、遺跡が保存されることになりました。

－掛川城跡・掛川古城確認調査－

1　位　　置　掛川市仁藤、掛川
2　調査期間　平成31年2月、3月
3　内　　容

遠州掛川城絵図（正保年間）

掛川城は、戦国時代、駿河守護の今川氏が朝比奈氏に命じて築城されました。現在の掛川城から北東へ500m程の独立丘陵に築城され、掛川古城と呼ばれます。その後、現在の場所に移され、山内一豊の時代に天守が造られ、城下町を囲む総構えを備えた近世城郭として整備されました。

掛川古城内である仁藤地区で実施した確認調査では、最深で地表下約2.5mまで掘削し、近世掛川城の東側の外堀の一部が発見されました。絵図に記載がある東側の外堀を、調査で発見するのは初めてのことです。しかし、堀の底までは達することができず、堀の幅も明らかにはできませんでした。

掛川城跡内である掛川市立中央図書館の南側で実施した確認調査では、近世掛川城の中の堀である蓮堀の南端を発見しました。この地点は、現在円満寺に移築されている蕗の門があった地点で、絵図の記載では蓮堀は現在よりさらに南に長い形状で、調査で発見された遺構はその一部であると考えられます。

明和7年（1722）5月21日（陰暦）、現在の長谷小出ヶ谷地区において銅鐸一口が発見され、掛川藩に届け出されました。掛川市教育委員会では、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、出土文化財展を開催しています。

文化財愛護シンボルマーク

発行：掛川市教育委員会社会教育課文化財係　　電話（0537）21－1158

第15回 出土文化財展

日時：令和元年6月12日（水）～6月23日（日）
場所：掛川市立中央図書館　1階生涯学習ホール

平成30年度に実施した整備事業

－史跡和田岡古墳群　吉岡大塚古墳－

1　位　　置　掛川市高田
2　工事期間　平成30年7月～
　　平成31年2月
　（整備工事開始　平成29年8月～）
3　内容

平成29年度　工事着手前

古墳時代中期（約1,600年～1,500年前）に築かれた和田岡古墳群は、原野谷川が形成した段丘に点在しています。4基の前方後円墳と1基の円墳に埋葬された人は、原野谷川中流域を治めた有力者と推定され、平成8年3月に国の史跡に指定されました。

吉岡大塚古墳は4基の前方後円墳のうちの一つで、平成19年度から平成26年度まで史跡整備に向け発掘調査を行いました。その結果、全長54.6m、後円部直径41.3m、高さ7mで、墳丘には葺石が施され、円筒埴輪、朝顔形埴輪、壺形埴輪が並べられていたことがわかりました。この結果に基づき、29年度から整備工事に着手しています。

葺石復元の様子

整備は、県道から見える古墳の南側の一部分には古墳築造時の姿を復元（葺石・埴輪を設置）、北側は、古墳保護のための盛土、植栽を行いそのまま保存します。30年度は墳丘の造成工事を実施しました。盛土により古墳を保護、成形し、後円部南側の一部分に葺石の復元を行いました。この葺石は築造時と同様に原野谷川の石を使いました。1,550年前の人々が古墳を造るために苦労した石の採取・運搬を、和田岡小学校、原谷小学校の5、6年生（126人）が体験し、今回の古墳復元に参加しました。墳丘の北側と南側の一部分には、植栽も行いました。

30年度工事完成　南から

平成30年度に実施した本発掘調査

ー吉岡下ノ段遺跡（16次）ー

1　位　　置　掛川市吉岡

2　調査期間　平成30年7月～
　　平成30年12月

3　内　　容

発掘調査地点遠景（北西から）

吉岡下ノ段遺跡は、高田原段丘上にある、縄文時代中期から戦国時代の遺跡です。調査地は、平成29年度の確認調査により遺構の存在が確認されており、茶園の改植により遺構の保存が難しくなったことから、記録保存のための本発掘調査を実施しました。

今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期（約1,800年～ 1,700年前）の竪穴住居跡5軒、掘立柱建物跡3棟の他、塚の周囲に溝をめぐらせた戦国時代の墓が発見されました。

南側調査区 完掘状況（真上から）

発見された竪穴住居跡の内、全体が確認できるものは2軒で、いずれも一辺の長さが5.5m程の方形で、深さは約15cmでした。北側調査区で発見された住居内には床面の一部が残っていたほか、煮炊きをした炉の跡や柱を立てた穴が見つかりました。また、住居内や柱の跡からは多くの炭が発見されたことから、焼失した家屋跡である可能性が考えられます。

南側調査区で発見された住居跡は、一部が茶園造成により壊されていましたが、床面の一部や炉の跡、柱の穴が発見されました。

北側調査区 竪穴住居跡（北西から）

掘立柱建物は、地面に穴を掘り柱を立て、地面より高い位置に床を作った建物で、倉庫として使われたと考えられています。発見された3棟の内、全体が確認できるものは2棟で、いずれも柱間が1間×2間で3m×4m程の大きさでした。

北側調査区 戦国時代の墓（南から）

一石五輪塔出土状況

調査区の北端では、土をこんもりと丸く盛り上げ、周囲に幅0.8～1m程の溝をめぐらせた、塚墓と呼ばれる墓が発見されました。発掘できたのは全体の半分程度で、盛り上げられた塚の上部は茶園の開墾により削られていました。溝を含めた平面形は隅丸方形で、一辺9m程度の規模であったと考えられます。塚の周囲の溝の中からは、石を削り出して造られた一石五輪塔3基が出土しました。元は、塚の上に立てられていたのでしょう。一石五輪塔の年代から、戦国時代（約430年前）の墓と考えられます。

平成30年度に実施した確認調査

掛川市内には、現在約700箇所の遺跡があり、県内でも遺跡の多い地域です。遺跡内で開発行為が行われる際は、遺跡の有無等を調べるため、確認調査という試掘を行います。平成30年度は20件の確認調査を実施しました。

ー瀬戸山Ⅰ遺跡確認調査ー

1　位　　置　掛川市高田

2　調査期間　平成30年6月

3　内　　容

縄文土器出土状況

瀬戸山Ⅰ遺跡は吉岡原段丘上にある縄文時代早期から古墳時代前期の遺跡です。調査地は畑地で、農地の造成計画に伴い確認調査を実施しました。調査の結果、弥生時代後期～古墳時代前期の土器と、竪穴住居跡や小穴といった遺構の他、縄文時代の土器と竪穴住居跡と思われる遺構が発見されました。調査地は令和元年5月より本発掘調査を実施しています。